

はばたくなら ①③

子どもの主体性を育てる
～サーキット遊びを通して～

取組について

■はじめに…

○進級当初、自分でしたい遊びを見つけられなかったり、自信のなさや苦手意識から、「できない」「やって」と保育士を求めたり、「これでいい?」「あってる?」と一つ一つ確認するなど、依存的な子どもの姿が多く見られた。また、手先や指先の力や、体幹が弱い姿があり、転びやすかったり、身体の動かし方がぎこちなかったりする姿もみられた。

○子どもたちの課題を見据えながら、子どもたち自身が、楽しみながら、主体的に遊び、子どもの意欲とからだ育てをしていくには、どのような環境や援助が必要であるのかを考えた。

○サーキット遊びを取り入れ、いろいろな運動遊具や、用具を利用しながら、子どもの主体性を育てるための環境や保育士の援助・配慮について、園内研修会を通して学びあった。

■ねらい

楽しみながらからだを動かして遊ぶ

取組を通して

○子どもが主体的に遊ぶ環境を考え整えると共に保育士の言葉かけや援助により子どもたちの姿がかわってきた。自分でやりたい遊びを見つけ、友だちと一緒に考えたり、工夫する中で「やってみたい・できるかな・やったらできた・またやりたい」という意欲とできた満足感を味わう中で、自信にもつながってきた。子ども主体の保育がたくさんの学びの場となることを10の姿で検証することで明らかになった。

実践事例：サーキット遊び ～保育士が設定したサーキット遊び～

①, ④

順番に並んで待っている



早く遊びたいな

幼児期に身につけたい36の基本動作を意識したサーキットで、どの遊びも楽しんでほしい

くもの巣に当たらないように低くなってくぐっている

①



満足感が
味わえているかな？

ボール入るかな？

できてるかな？

待っている時間が長いな



①, ④

けんけんぱー
できたよ

①, ④

3回投げたら次のコーナーへ



～園内研修会で学びあったこと～

子どもが主体的に遊ぶサーキット遊びの環境は？

保育士の言葉かけや援助は？

友だち同士の関わりはどうであったか？保育士主導になっていないか等、職員間で話し合った。

園内研修会を受けて・・・

・保育士が選んだ運動遊具を設定し、保育士が考えた遊び方を知らせて遊びを進めていったので、保育士主導になっていた。

・保育士主導になっていたことで、子どもたちは淡々とサーキット遊びをこなしていくようになり、友だち同士の関わりはあまり見られなかった。

・どの遊具でも遊べるようにと、一列に並んで順番に進むよう声を掛けていったことで、「いっぱい体を動かして遊んだ」「友だちと一緒に楽しく遊んだ」など、十分に満足感を味わうことができなかつたかもしれない。

実践事例：サーキット遊び

～子どもたちの考えを取り入れたサーキット遊び(園内研修を受けて)～

改善したところ

- ・子どもたちが自分たちで運動遊具を設定できるようにする。
- ・自分たちが遊び方を考え、試してみる姿を見守る。
- ・サーキットを順番に回るのではなく、好きなところで遊べるようにする。

①, ③, ⑥, ⑨

こんな形にしてみようかな？



①, ②, ⑥

斜めにしてみたよ！



工夫したり、試したりしている。

友だち同士で相談しながら、運動遊具を組み変えている。

自由にどこでも遊べるようにしたことで、友だちと相談して遊具を組み合わせたり、同じ遊びに何度も挑戦したりして、意欲的に遊ぶようになった。

①, ③, ⑥, ⑨

ゲームボックス持ってきたよ



長いトンネルができたよ



友だち同士の会話が増えている。

①, ③, ⑥

友だちと一緒にいろいろな遊び方を考えながら楽しく遊んでいる。

色々な身体の動かし方を楽しんでいる。



①, ②, ⑥

何度も挑戦している。

終わりに…

■園内研修を受けて、保育アドバイザーに“子どもたちの主体性を大切にするためには、どのようにすればよいか”を教えていただき、クラス担任で話し合う機会をもち、主体的に遊べる環境や保育士の言葉かけや援助の方法について保育の見直しを行った。

■変化した子どもの姿…

○まず、子どもたちが自分たちで運動遊具を設定できるようにした。すると、「一本橋を長くしてみよう」などと少しずつ考えるようになり、2台の平均台をくっつけてみたり、少し離してみたりする姿がみられた。また、コーンバーをくぐったり、またいだりして、自然と色々な身体の動きをして楽しむようになった。

○友だち同士でも意見を出し合ったり、協力したりしながら、ゲームボックスをつなげ、「迷路みたい」「ここもくぐれるよ」など遊んでいく中でどんどん工夫していくようになった。

○また、順番に並んでサーキットを回るのはではなく、好きな遊具を選んで、自由に遊べるようにしたことで、コーンバーでは自分の好きな高さに設定して、何度も挑戦するようになった。そして、「できた!」「次はもっと高きましょう!」など、できた喜びを感じ、より意欲的に遊ぶようになり、そんな子どもの気持ちをそばで保育士が十分に認め、褒めることで、自信につながってきた。

